

2012年（平成24年）度第3回常務理事会記録

日時 2012年（平成24年）6月23日（土） 13:00～15:40

場所 東京大学医学部教育研究棟2F第4セミナー室

出席者：高田邦昭（理事長）、牛木辰男、岡部繁男、河田光博、渡辺雅彦（以上常務理事）、竹田 扇、寺田純雄、仲嶋一範（以上常任幹事）、天野恵子、中村 聡（以上、口腔保健協会）

I. 会議記録の確認

2012年（平成24年）度第1回常務理事会（平成24年3月25日開催）記録（案）

2012年（平成24年）度第2回理事会（平成24年3月25日開催）議事録（案）

2012年（平成24年）度学術評議員会・総会（平成24年3月27日開催）議事録（案）

II. 報告事項

1. 庶務報告（岡部庶務担当理事）

(1) 会員異動報告

平成24年3月分（入会者 正会員3名、学生2名、退会者 正会員 15名、学生1名、学術評議員2名、賛助会員1名）

平成24年4月分（入会者 正会員9名、学生2名、退会者 正会員 3名、名誉会員1名）

平成24年5月分（入会者 正会員5名、学生2名、退会者 正会員 1名、学生1名）

逝去会員：

大倉卓治氏（川崎医科大学名誉教授/名誉会員）平成23年12月7日逝去（享年87歳）

高木 勇氏（藤田保健衛生大学名誉教授/名誉会員）平成24年1月13日（享年83歳）

村上守良氏（元・長崎大学教授/元・学術評議員）平成24年5月28日逝去（享年82歳）

太田義邦氏（大阪歯科大学名誉教授/名誉会員）平成24年6月6日逝去（享年84歳）

(2) 学会宛文書類について

① 通知・依頼：日本医学会より「平成23年度 日本医学会新規加盟学会について」他51件の通知・依頼あり。

② 書籍・定期通信等：NPO医学中央雑誌刊行会より「医学中央雑誌収録誌目録 2012」他25件あり。

(3) 各種委員会報告について

資料に基づいて説明があり、海外交流、解剖組織技術士、学術、情報技術の各委員会の報告書が示された。

(4) 一般社団法人への移行申請について

資料に基づいて説明があり、以下の諸点に関して確認が行われた。

① 移行過渡期に就任した教授の代議員資格に関しては「申し合わせ」というかたちで記述し、細目に関しては、移行後に再検討すること。

② 解剖学会定款第19条5項、27条1項、第35条、第38条、役員選出細則第4条2項を改訂すること。

③ 名簿基金の運用規定を起草すること。

④ 2012年12月の理事会で新法人の仮予算案の承認が必要であること。

⑤ 現在の執行部役員の任期が2013年3月29日までであること。

⑥ 規約集の改訂を法人移行WGに依頼し、その内容の確認を本年9月開催の常務理事会に諮ること。

(5) 「臨床医学の教育および研究における死体解剖のガイドライン」について

資料に基づいて説明があり、記者会見の様態、外科学会の動向に関して報告があった。また厚生省主導に依るプロジェクト公募に関して全国の大学の取り組みを含めて意見交換がなされた。

(6) 日本外科学会「ガイドライン検討委員会」委員推薦について

資料に基づいて説明があり、委員として内山安男氏、井出千束氏、岩永敏彦氏、菊田彰夫氏を推薦した旨の報告があった。

(7) 日本脳科学関連学会連合について

資料に基づいて役員等に関する説明があった。

(8) その他

特になし。

2. 編集報告（渡辺編集担当理事）

(1) 解剖学雑誌及びASI刊行報告及び刊行予定

資料に基づいて説明があった。

(2) 科研費採択結果について

資料に基づいて説明があった。全体の採択率が70%であるにも関わらず、不採択が続いている事に関して説明があった。

(3) 平成24年度科研費制度変更について

出版物に対する科研費の枠組みが変更になり、採択件数が大幅に削減されることが紹介された。

(4) その他

特になし。

3. 企画・渉外報告（河田企画・渉外担当理事）

(1) 平成24年度奨励賞・解剖組織技術士功労賞候補者の募集について

資料に基づいて説明があった。

(2) 平成24年度一級技術士資格試験について

資料に基づいて説明があった。

(3) 2012(平成24)年度総会・全国学術集会準備状況について

① 資料に基づいて説明があり、生理学会との合同シンポジウムの概要が紹介された。

② プログラム要旨集のPDF化やHPのフォーマットなど全国学術集会のマニュアル化を推進することが提案され、今後具体的に取り組むことにした。

③ 第118回全国学術集会に関して以下の諸点が確認された。企画シンポジウムのシンポジストはなるべく解剖学会員とすること、学術集会の赤字は学会が補填する事、学術集会と懇親会の予算運営は一体であること、一般参加費は参加者の減少を招かない金額に設定すること、である。

(4) その他

特になし。

4. 会計報告（牛木会計担当理事）

(1) 第117回全国学術集会・総会収支報告について

資料に基づいて説明があり、余剰金の取り扱いに関して報告された。

(2) 平成24年度中間決算書について

資料に基づいて説明があった。

(3) その他

特になし

III. 審議事項

1. 新入会員の承認について

資料に基づいて説明があり、21名全員が承認された。

2. 教授就任による学術評議員審査について

資料に基づいて説明があり、1名が承認された。

3. 2015（平成27）年度総会・全国学術集会担当校について

現在までの応募が確認され、開催候補となる大学の状況等を調査することとなった。

4. 永年会員、名誉会員の見直しについて

資料に基づいて解剖学振興基金と併せて説明があり、予算状況を見ながら暫くは現行制度を維持することとした。

5. 男女共同参画学協会連絡会への加盟について

資料に基づいて説明があり、正式に加盟することが承認された。

6. 「特別事業積立金運用の申し合わせ」一部改正について

資料に基づいて説明があった。学会余剰金に関してその使途を「特別事業積立金」として運用することが提案され、承認された。また第117回大会の余剰金の積立金への繰り入れは12月の理事会承認を得た後、という事が決定された。更に、「特別事業積立金」は目的別に「国際学会開催のための補助」と「国際交流のための補助」の2本立てに変更する事が提案され、承認された。

7. 海外交流委員会後援によるシンポジウム（案）について

資料に基づいて説明があり、従前の「海外交流関係費」の使途に関して意見交換があった。その結果「海外交流委員会後援によるシンポジウム」への援助として試行的に支弁することが提案され承認された。それに伴って名称を「海外交流推進のためのシンポジウム」とし、旅費を援助する母体は「学会」に変更する事にした。河田理事から海外交流委員長の脇坂 聡氏に相談する事にした。

8. 新規賛助会員の獲得について

資料に基づいて説明があった。種々の意見交換が行われた。

9. 厚生労働省事業「平成24年度実践的な手術手技向上研修について」

資料に基づいて説明があった。種々の意見交換が行われた。

10. 財団法人日本篤志献体協会について

資料に基づいて説明があった。日本篤志献体協会は公益法人に移行する事となり、新評議員として個人の資格として数名の解剖学会関係者が参加する予定である。解剖学会からの補助について今年度は予算化を行い、次年度以降の在り方については検討する必要がある旨が確認された。

11. その他

特になし

次回の常務理事会開催予定日

2012年9月8日（土）13:00～15:00 東京大学本郷キャンパス医学部教育研究棟2階セミナー室

以上